
2つの家族

鬼羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2つの家族

【Nコード】

N6925S

【作者名】

鬼羅

【あらすじ】

いつものように昼寝をする銀時はある夢を見た

（前書き）

鬼羅です。

読んでいただけると光栄です。

銀時：「先生。かぞくつてなに？」

まだ拾われて間もない頃、先生にこんなことを聞いた覚えがある
今思うとそんなことも知らなかったのかと笑えてくる

松陽：「……………家族、ですか…親と子ですよね…」

血の繋がりがあるということですよ。」

銀時：「皆いるよね。なんで俺だけいないの？鬼だから？」

松陽：「そんなことはありません…それに家族ならいるじゃありませんか」

銀時：「…え？」

松陽：「私と…そうだ、銀時からしたら小太郎と晋助ですね。」

銀時：「血の繋がらないけど…。」

松陽：「関係ありませんよ

確かに血の繋がりは大切だと思います…けどね？

それと同じくらい強い絆で結ばれているのであれば、

それだけで家族だと、私は思います。

だから、お前は独りじゃない。それを忘れないで下さい。」

銀時：「うんー!」

神楽：「……………ん…ちゃん…銀ちゃん!」

銀時：「んあ?」

神楽：「やっと起きたアルか?」

新八：「まったく、昼間からどんだけ熟睡してんですか。」

なんだ…夢か…と頭の中で呟く。

なにもやることなく、ボーっとしているといきなり両腕をつかまれた

銀時：「え…、なにこれ…3人仲良くお出かけ?」

新八：「銀さんが暇そうにしてたから

久しぶりに3人で定春の散歩でもと思って…だめでした?」

遠慮がちに聞いてくる

銀時：「まったく、しゃあねえ、つきあってやるよ。」

そう言つと2人とも嬉しそうに笑つ…その笑顔をみると俺も嬉しくなる

先生。 見てる？これが今の家族…。

2人ともまだ餓鬼だけだね。

今の俺はこいつ等なしじゃ前に進めない…それだけ信用してんだ
でも、やっぱり寂しいときはある

だつて先生いたときのほうが幸せだった

…なんてね。今はあの頃に負けなくらい幸せだよ

だから、これだけ言っておくね

俺に家族の大切さを教えてくれてありがとう。

大好きだよ

（後書き）

ありがとうございました。

銀ちゃんの話仕方、少し幼い感じがするかもしれませんが、この話ではこっちのほうの内容にあっていると思うてそうしました。

下手ですいません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6925s/>

2つの家族

2011年10月8日23時13分発行